

# 多文化共生事業事例集

年度

R5

団体名

知名町（和泊町、合同会社オトナキ）

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

事業費総額 1,900 千円

事業名

めんしょーり！やさしい島生活ガイド制作事業

概要

離島独自の生活情報（台風対策、方言の挨拶、ごみ出し、外国人歓迎のサークルなど）や、交通機関（バスやタクシー）の利用方法をやさしい日本語でまとめた冊子を作成して配布した。本冊子の提供で、島で生活する上での不安を解消し、社会・経済活動への参加の第一歩となることが期待される。また、冊子を活用したバスの乗り方講習会を実施し、外国人住民と日本人の交流の機会を設けた。

## 事業のポイント

島の生活に必要な情報を、やさしい日本語でまとめた冊子を制作し、外国人住民等に配布することで、外国人住民の島の社会と経済活動への参加を促す。インターネット上でも公開することで、事前に情報を知った上で安心して来島できる環境をつくる。また、冊子を活用して、バスの乗り方についての講習会を開催。自転車以外の移動手段の選択肢を増やすとともに、サポーター役の日本人との交流を促し、継続したフォロー体制を構築す

## 事業の背景・目的

知名町に63人、和泊町に98人の外国人住民が生活する（令和3年12月時点）。沖永良部島の総人口の1.4%に上り、県平均の0.88%の1.5倍以上に及び。約20年前頃から、国際結婚により定住するフィリピン等出身者がいたが、近年では農業を中心として、ベトナム等出身の技能実習生の受け入れ、インドネシア等出身の特定技能の雇用が増え、島民の多国籍・多文化化が進んでいる。

台風対策、方言等、地域独自の生活知識が求められる。また、公共交通機関は、利用者が高齢者中心で多言語化されていないバスのみで、電子決済は使えない。乗り方について周知もなく、日本語能力がないと利用できない。外国人住民の半数以上が、移動手段は徒歩と自転車に限られている。雇用元を除く地域住民とはスーパーで居合わせる見程度で交流はなく、地域住民からのフォローや、日本語能力が伸びることへの期待は厳しい。

## 事業の詳細

事業内容委託：合同会社オトナキ

対象者：島内の外国人住民、外国人雇用企業 実施地域：沖永良部島内

①生活の困りごとについてのアンケート（冊子トピック案作成）

5月中旬～下旬 24人 10事業所から回答

対象者：島民 実施地域：沖永良部島内

①協議会の開催（第1回）6月15日（木）18：30～20：30

参加者：生活情報冊子制作メンバー、役場職員、鹿児島県庁職員、外国人雇用企業、外国人住民、国際交流の実績がある島民など。

冊子作成の目的等と流れ等について確認（以後、各回で冊子の進捗確認を実施）

対象者：島民 実施地域：沖永良部島内

②協議会の開催（第2回）9月5日（火）18：30～20：30

中国・ネパール・フィリピン出身の住民にも参加してもらい、生活の困りごと等について意見交換実施。また、中国出身の母親をもつ地元高校生が、外国人住民に対する差別の実例や、子どもとしての視点等について話した。

対象者：島民 実施地域：沖永良部島内

③協議会の開催（第3回）12月8日（金）18：30～20：30

冊子の外国人向け以外の活用方法を検討。バスの乗り方講習会の内容を協議。

対象者：島内の外国人住民、日本人住民 実施地域：沖永良部島内

④バスの乗り方講習会（第1回）1月6日（土）9：00～14：00

外国人住民4名と、サポート役の日本人住民5名が参加。和泊町役場で講習実施後、路線バスで地元スーパーへ。その後バスで知名町市街地へ移動。ランチミーティング後、バスで和泊町役場へ戻り、解散。

⑤バスの乗り方講習会（第2回）1月14日（日）9：00～13：00

外国人住民5名と、サポート役の日本人住民7名（雇用主1名含む）が参加。和泊町役場で講習実施後、路線バスで、観光協会へ。アップサイクル体験後、リサイクルとごみの分別について学んだ。昼食に、ハラルに配慮された弁当を食べ、インドアカで交流した後、バスで和泊町役場へ戻って解散した。

対象者：島民 実施地域：沖永良部島内

⑥協議会の開催（第4回）1月18日（木）18：30～20：30

バスの乗り方講習会についての日程・参加状況・メディア掲載内容・参加者の声について報告。その後、事業終了後の各自の取り組みについて共有。



**1 沖永良部島を知る**

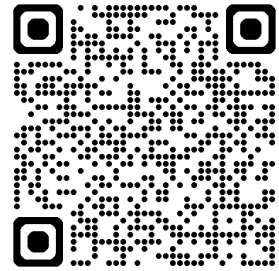
ようこそ 沖永良部島へ！「お島の暮らし」を楽しく「えらぶ」とよびます。あなたが えらぶで楽しく生活するために えらぶのことを知ってください。

**住んでいる人の数**  
えらぶには 12000人くらいの人が住んでいます。

**町の中心**  
知名町と和泊町の2つの町があります。

**空の中心**  
飛行機「空」というコミュニティがあります。知名町と和泊町にそれぞれ21の空があり、ぜんぶで42の空があります。空は、みんなで集まって空撮や飛行を楽しんだり、70歳になった人を祝ったり 運動会に出たりします。

**水産の中心**  
でも、暖かい場所です。梅雨や台風が多く、災害も多発します。



ダウンロードはこちらから

事業実施における工夫点・事業の成果等

**【アンケート】**  
回答者：外国人住民24人、事業所10  
**【協議会（全4回）】** 延べ  
参加者：日本人住民73人、外国人住民5人  
**【バスの乗り方講習会（全2回）】** 延べ  
参加者：日本人住民12人、外国人9人



第2回制作協議会の様子

今後の課題・将来に向けての展望等

**【課題】**

- ・属性の近い者同士の交流促進  
バスの乗り方講習会は、参加者全員が20代男性のみだった2回目においては共通の話題も多く盛り上がりを見せた。一方、年代や性別が混在していた1回目では、互いに気を遣う素振りを感じる場面があった。地域の交流においては、年代や趣味趣向など、慎重なマッチングが必要だと感じた。
- ・外国人を雇用する事業所の参加促進  
バスの乗り方講習会にて、役場協力のもと、外国人を雇用する10以上の事業所に案内状を送付して呼びかけたが、農繁期であったためか、1社を除いて反応はなかった。参加しなかった理由について調査する必要があると考えている。イベントを行うのであれば農閑期に合わせるなど、開催時期の重要性を認識した。
- ・インターネットを活用した情報発信  
知名町・和泊町のホームページでPDF版を公開しているが、スマートフォンで表示するには字が小さい。今後、インターネットを活用した情報発信により、外国人住民が事前に情報を得やすい環境づくりに期待できる。
- ・屋外での通信手段の確立  
外国人住民から「携帯電話（番号）を持っていない外国人は多い」という声があった。屋外では緊急時の連絡手段が確保できず、屋外に出ることの妨げになりうる。島内の公衆無線LANや格安の携帯番号サービスの周知が必要だと感じた。

**【展望】**

技能実習生や特定技能として就労する外国人住民の業種の大半は、基幹産業である農業が占めていたが、今後、複数に増えていく可能性が高い。参加した経営者から「外国人を雇用する事業所同士が相談できる機会」を求める声があがった。

また、助成がない状態で、今後どのように今回のような取り組みを継続していくかについても議題にあがった。役場や商工会、学校、集落など、各団体のリソースを組み合わせることで、予算がない状態でも、外国人住民の困りごとをなくす仕組みの設計が急務である。児童教育においても、多様性教育という切り口から、外国人住民が先生として協力してもらえるとよいといった島民の意見もあった。

以上のことを踏まえて、観光・教育・福祉・経済など各分野のプレイヤー同士がコラボレーションを行い、リソースを共有しつつ、相利共生の状態を生み出し、「低コストで持続可能な多文化共生」の実現を目指したい。



インディアカを楽しむ  
インドネシア人と日本人参加者

事業担当者のふりかえり

- ・外国人住民が多い中でこれまで多文化共生に向けた施策が実施できていない状況でしたが、本事業によってガイドブックが作成されたことはこれからの取り組みの足掛かりとなりました。
- ・引き続き、関係者の連携体制の構築など、取り組みを進めていきたいです。